

4

感動共有スポーツ推進プロジェクト

1 プロジェクトの概要

(1) 目標

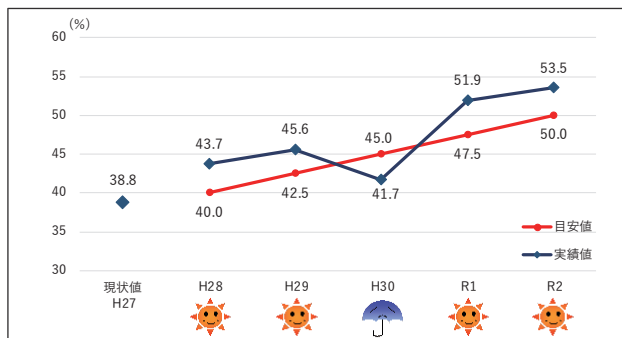
- 本県での国民体育大会・全国障害者スポーツ大会開催に向けて、更なる競技力向上を図るとともに、東京オリンピック・パラリンピックの開催等も契機に、県民のスポーツへの興味・関心を高め、誰もがスポーツに親しめる機会と交流の場を広げます。

(2) 重点的取組

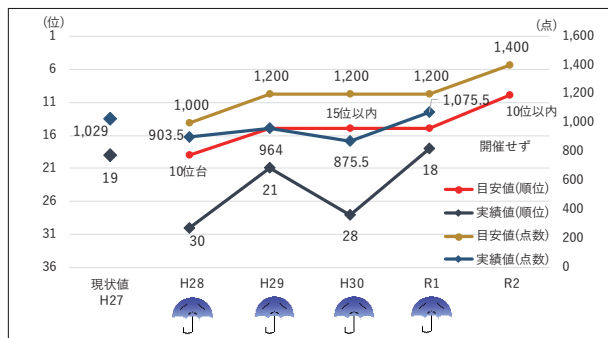
- ☆ スポーツを通じた人づくり
- ☆ 国体等を見据えた競技力向上

2 プロジェクトの進捗を表す成果指標等の状況

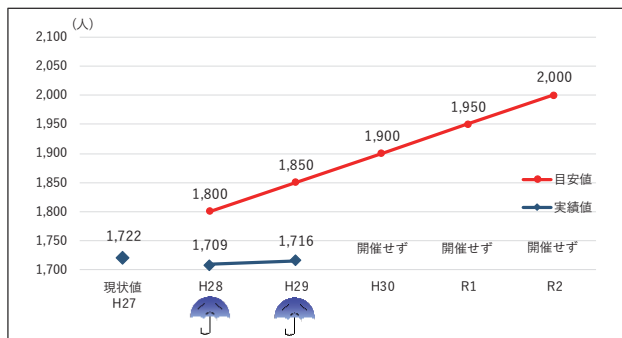
①スポーツ活動実施率



②国民体育大会の天皇杯順位と得点



③県障害者スポーツ大会参加選手数



(注)達成見込の判断



概ね順調



やや遅れている



遅れている

○成果指標の分析

- ① 令和2 (2020) 年度は、主に30代、40代の実施率が上昇しました。
- ② 令和元 (2019) 年度は、40競技中23競技が競技得点の獲得に貢献できていないため、目安値には達していません。
- ③ 令和2 (2020) 年度は、本大会の中止により分析には至っていません。

3 県民満足度調査の結果

| | H28 (2016) | H29 (2017) | H30 (2018) | R1 (2019) | R2 (2020) |
|------------|---------------|---------------|---------------|--------------|--------------|
| 満足・やや満足の割合 | 35.3% | 33.7% | 37.4% | 33.7% | 34.2% |
| やや不満・不満の割合 | 11.6% | 11.2% | 11.3% | 12.6% | 8.8% |

4 主な取組成果

① スポーツを通じた人づくり

▷ 健やかな人づくりを推進

- すべての県民が気軽にスポーツ活動を楽しむことができる環境づくり
 - ・ 「とちぎスポーツフェスタ」の開催支援によるスポーツの裾野の拡大
 - ・ 総合型地域スポーツクラブの創設・育成支援
 - ・ 障害者スポーツセンターの運営による障害者スポーツについての情報発信と活動機会の提供
- 総合スポーツゾーンの整備推進
 - ・ 陸上競技場（愛称：カンセキスタジアムとちぎ）の新築工事、硬式野球場改修工事の完了
 - ・ 合宿所改修工事、その他施設や周辺道路の整備推進
 - ・ 東エリア整備運営事業（PFI）による新体育館・屋内水泳場新築工事の推進
- スポーツを支えるボランティア等の育成
 - ・ スポーツボランティアのリーダー的役割を担う人材の養成
 - ・ 「初級指導員養成講習会」の継続実施による障がい者スポーツ指導員の養成
- オリンピック・パラリンピック教育の推進
 - ・ 学校における体育・保健体育の授業等を通じたオリンピック・パラリンピック教育の推進
- 東京オリンピック・パラリンピック等キャンプ地誘致の推進
 - ・ ハンガリー水球連盟等のトレーニングキャンプ受入れ及び直前キャンプに係る覚書の締結
 - ・ ホストタウンとして登録しているハンガリーの理解促進を趣旨としたシンポジウムの開催
- 本県開催の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会に向けた機運醸成
 - ・ 高校生、大学生等を中心とした広報ボランティアによるPR活動の実施
 - ・ いちご一会ダンス講習会の開催
 - ・ いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会の設立
 - ・ 開催3年前イベント及び冬季大会開催2年前イベントの実施
 - ・ 国体の各競技会の円滑な運営及び国体後の県民スポーツの一層の普及・振興に向けた計画的な競技役員育成
 - ・ 式典の具体的な内容について基本的な考え方を明示した「式典基本計画」の策定
 - ・ 大会において手話や要約筆記等により情報保障を行う「情報支援スタッフ」の養成に向けたテキストの作成及び大会時のリーダーを養成するための講習会の継続開催
- 県内プロスポーツチーム等との連携によるスポーツの振興
 - ・ 子どもたちを対象としたスポーツ教室などチームが実施する地域貢献活動への協力
 - ・ 各プロスポーツチームと連携した県民の日イベントへの参加やホームゲームのPR等による県民が気軽にスポーツに親しむことができる機会の創出

② 国体等を見据えた競技力向上

▷ 競技力向上

- ジュニア選手の発掘及び各年代に応じた選手の育成・強化
 - ・チームとちぎジュニア選手として小・中学生選手を指定するなど計画的に強化したほか、成年選手への強化策を拡充
 - ・国体において入賞が期待できるトップアスリートをスポーツ専門員として雇用
- 指導者の計画的な養成及び資質の向上
 - ・中央競技団体や県競技団体が実施する指導者講習会等への県内指導者の派遣
 - ・各種指導者講習会の開催
- スポーツ医・科学サポートや競技環境の整備等の推進
 - ・とちぎスポーツ医科学センターの令和2（2020）年度供用開始に向け、測定機器や管理運営体制を整備
 - ・特殊なスポーツ用具の整備など競技環境の整備
- 障害者スポーツの普及及び選手の育成・強化
 - ・選手の取組意欲の向上及び競技力の向上を図るため、強化指定選手制度（アスリートゴールドリーダー・チーム制度）を創設
 - ・団体競技チームの強化支援
 - ・競技人口の裾野拡大を図るため、障害者スポーツセンター等で体験会を開催
 - ・県障害者スポーツ選手等育成・強化委員会の開催による育成強化に係る検討や取組結果の検証

5 総合評価

① スポーツを通じた人づくり

▷ 健やかな人づくりを推進

- ・すべての県民が気軽にスポーツ活動を楽しむことができる環境づくりについては、スポーツフェスタの開催支援やスポーツクラブの育成などの取組により、スポーツ活動実施率が平成28（2016）年度から緩やかに伸びてきており、令和元（2019）年度には目標値を達成するなど、順調に進んでいます。また、障害者スポーツについては、障害者スポーツセンターの利用者も上昇傾向にあり、裾野の広がりが見られます。
- ・総合スポーツゾーンについては、新スタジアムや新武道館等が完成するとともに、PFI事業による東エリアの新体育館・屋内水泳場の整備も着実に進むなど、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会等を見据え、各種施設の整備が順調に進捗しています。
- ・スポーツを支えるボランティア等の育成については、東京オリンピックやいちご一会とちぎ国体・とちぎ大会などに向けて、計画的にリーダーの研修が進められるなど、リーダーの意識向上が図られてきています。また、ボランティア人材の中核となる「障がい者スポーツ指導員」の養成研修の継続実施により、修了者は増加しています。
- ・東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成シンポジウムにより、機運が着実に醸成されており、東京2020教育プログラム「ようい、ドン！スクール」認証校が順調に増加しています。
- ・いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会に向けて、実行委員会の設立や広報ボランティアによる啓発活動、開催3年前イベント等の開催、競技役員育成、情報支援を行うスタッフの養成等により、機運が醸成されてきています。
- ・県内プロスポーツチーム等と連携し、県のイベント等を開催するとともに、ホームゲームのPRなどの取組により、スポーツの振興が図られました。

② 国体等を見据えた競技力向上

▷ 競技力向上

- ・国体の天皇杯順位は、平成28（2016）年に落ち込んだ後は改善しているものの、指標の目安値を下回っているため、引き続き、各競技のレベルアップが求められています。

- ・選手の発掘・育成・強化については、タレント発掘やジュニアアスリートの育成に取り組んできた結果、令和元（2019）年度には中学生の全国大会で過去最高の入賞チーム・選手数となる活躍を見せるなど、ジュニア選手の強化が着実に進んでいます。また、成年種別については、スポーツ専門員や強化指定した選手・チームの活躍により、国体本大会の順位に成果が現れているものの、競技に偏りがあるため、より一層の強化が求められています。
- ・指導者の養成については、研修会を機に科学的な知見に基づく戦力分析・戦略立案を導入し、好成績を収めたホッケー競技のような団体を増加させるため、強化指定コーチに対する実戦向け指導者研修会の充実が求められています。
- ・「とちぎスポーツ医科学センター」については、スポーツ医・科学の知見を有する職員の配置及び必要な測定機器の導入を行っており、国体候補選手に対する体力測定や動作分析、栄養指導等のサポートの充実が期待されます。
- ・障害者スポーツの普及および選手の育成・強化については、県障害者スポーツ選手等育成・強化基本計画（とちぎチャレンジプラン）に基づき各種事業に取り組んでおり、全国障害者スポーツ大会における個人競技のメダル獲得率は上昇しています。